

岩崎純一

第三期岩崎式日本語の格標識	名詞・動詞の変遷	道具、影響、希求、能力、意志、行為、有生物、主格	身体、非影響、希求、能力、意志、行為、有生物、主格	身体、非影響、非希求、能力、意志、行為、有生物、主格	身体、非影響、非希求、非能力、非意志、行為、有生物、主格	身体、非影響、非希求、非能力、非意志、状態、有生物、主格	身体、非影響、非希求、非能力、非意志、状態、無生物、主格	身体、非影響、非希求、非能力、非意志、状態、無生物、対格	被験者となった重度解離性障害者・自閉症者・性的被害者女性の 2009年現在の年齢の平均	私岩崎純一の到達年齢	一般日本人男性の到達年齢	一般日本人女性の到達年齢	人類の世界認識の変遷	私岩崎純一の世界認識及び対女性共感覚の変遷	現在の印欧語文法から予測される、それら印欧語が到達した時代	日本語が到達した時代
		<p>一個人において、誕生以降に解離感や共感覚を失う速さが、時代が下るほど速く、従って人類全体でも、時代が下るほど共感覚を大きく失って今日に至る。すなわち、個人においてこの表の下へと移行する速さが、時代を下った一般の男女ほど、速い。紫色付きは、一般健常者において物心付くと記憶が消えるとされる時期。▼は、それより過去の時代・時期は、体験としては遡及できず、言語と思考によってのみ言及可能であることを示す。▲は、それより後の時代の世界認識と文法に移行せず、それ以前の時代のそれらを維持することを示す。対女性共感覚は、現代のほとんどの男性にとって、物心が付くまでの成長過程の中で一気に盛衰し、一通り母語を覚えた時点では、すでに喪失している。印欧語、特に現代の英語や欧州語の話者ほど、その傾向が強い。</p> <p>2008年現在、基本的な文法がとどまっている段階にその言語名を記した。 ●は死語。</p>														

岩崎純一

A 前言語	人間＝自然である。自我と他我の区別も存在しない。										2 4	胎児期 ～ 0歳半	胎児期 ～ 0歳半	胎児期 ～ 0歳半	●重度自閉症者の世界認識	潜在的対女性共感覚の全盛期 胎児期や幼児期から無意識に女性の身体の波を把握か。	250万年前～20万年前：旧石器時代 ●ホモ・ハビリスやホモ・エレクトス		
B 擬音・擬態言語	擬音・擬態語	(擬1～9)	ト、セツセセツセ	ト、バタン	ハナ、ホンワカ	ハナ、チラツ	ウエーン	ズテツ、ドタツ	ヨイシヨ、ユツタリ	ト、バタン	シクシク	2 3	～1歳半	～1歳半	～1歳半	●重度自閉症者の世界認識（各言語ごとに音韻組織（清音と濁音など）が整い始め、喃語（アーなど）、初語（ママ、ブーブーなど）を発し始める時期。）	無意識に女性の身体情報を感知するか。	20万年前～B. C. 10000：旧石器時代 ●ホモ・ネアンデルターレンシスの簡単な言語 ●およそ2万年前、ホモ・サピエンス・サピエンス以外のヒト属が絶滅 ●家族単位・集団単位・部族単位で言語が異なるか	
C 空格言語	名詞と動詞の区別なし (原動詞)	(空1～9)	私、扉、作ること。	私、扉、閉めること。	私、花、好むこと。	私、花、見ること。	私、泣くこと。	私、転ぶこと。	私、座っていること。	家、建つこと。	時間、残ること。	2 1	～2歳	～1歳10か月	～2歳（女兒は若干遅れる）	●重度自閉症者の世界認識（幼児の語彙が300～400語ほどとなる時期。）	一般に未だ多くの男児が無意識に女性の身体情報を感知するか。	B. C. 10000～ ●これ以降、印欧語はB. C. 4000までに一気に主格言語に達する。 ●農耕広まり、一つの言語が拡散し、現在の語族ができる	縄文時代語

岩崎純一

D 識格言語	名詞 識動詞	(識1~9)	私(絶) 扉(絶) 作る。	私(絶) 扉(絶) 閉める。	私(絶) 花(絶) 好む。	私(絶) 花(絶) 見る。	私(絶) 泣く。	私(絶) 転ぶ。	私(絶) 座っている。	家(絶) 建つ。	時間(絶) 残る。	2 3	~2歳2か月	~2歳	~2歳2か月	▼言語生活に支障がない女性の 遡及の限界域	一般に男女の別を把握し始める時期。あらゆる女性の身体情報(排卵や月経)を共感覚で感知。	○中国語 ○ニヅフ語 ○アイヌ語 ○ハンティ語ヴァフ河方言 ○ルシヤン語 ○オーストロネシア語族 (タガログ語などのフィリピン型格配列)	弥生時代語
		E 具格言語	具主体名詞 具動詞 非具主体名詞 非具動詞	(具1~9)	私(具) 扉(絶) 作る。	私(絶) 扉(絶) 閉める。	私(絶) 花(絶) 好む。	私(絶) 花(絶) 見る。	私(絶) 泣く。	私(絶) 転ぶ。	私(絶) 座っている。	家(絶) 建つ。	時間(絶) 残る。	2 1	~2歳4か月	~2歳2か月	~2歳4か月	▼私岩崎の遡及の限界域(この段階を遡及可能な男性の9割は、言語や社会生活に何らかの支障がある。) ▲言語・社会生活に支障のある解離性障害者女性がとどまっている段階	▼これより私岩崎の実際の記憶 あらゆる女性の身体情報を共感覚で感知。女性に対してのみ、他の物体や抽象概念に対するのとは異なる共感覚を持っていることを自覚する。 対女性共感覚の全盛

F 及格言語	他及体名詞 及動詞	自及体名詞 非及動詞	(及1~9)	私(及)扉(絶)作る。	私(及)扉(絶)閉める。	私(絶)花(絶)好む。	私(絶)花(絶)見る。	私(絶)泣く。	私(絶)転ぶ。	私(絶)座っている。	家(絶)建つ。	時間(絶)残る。	2 2	~ 2歳半	~ 2歳4か月	~ 2歳半	▼言語生活に支障がない自閉症男性の遡及の限界	「女性への嗜好」と無関係に、女性の身体がひと月ごとに変化するのを見ている状態。(それが動物としてのメスの変化である、ということだけは認識している。)	○モルドビン語、チェレミス語、ジリヤン語など ○ドラヴィダ語族(タミル語など) ○チベット語 ○ポリネシア諸語 ○バスク語	奈良日本語
G 希格言語	希求体名詞 希動詞	非希求体名詞 非希動詞	(希1~9)	私(希)扉(絶)作る。	私(希)扉(絶)閉める。	私(希)花(絶)好む。	私(絶)花(絶)見る。	私(絶)泣く。	私(絶)転ぶ。	私(絶)座っている。	家(絶)建つ。	時間(絶)残る。	2 3	~ 2歳9か月	~ 2歳半	~ 2歳9か月	▲言語・社会生活に支障のある共感覚者男性がとどまっている段階(男性の場合、言語活動そのものが相当に欧米語的にならなければ、現代では満足に社会生活ができない。)	共感覚で見聞きしている女性の身体情報の美しさの度合いで、女性に落差を付け始める。一般のほとんどの男性、この時期までに全ての対女性共感覚を失う。	●フルリ・ウラルトゥ語族 B. C. 2300~B. C. 1000 : ●フルリ語 B. C. 9c~B. C. 6c : ●ウラルトゥ語 ○バントゥー諸語(スワヒリ語など)	平安日本語

岩崎純一

H能格言語	能動体名詞 能動詞	非能動体名詞 非能動詞	(能1~9)	私(能)扉(絶)作る。	私(能)扉(絶)閉める。	私(能)花(絶)好む。	私(能)花(絶)見る。	私(絶)泣く。	私(絶)転ぶ。	私(絶)座っている。	家(絶)建つ。	時間(絶)残る。	24	~5歳半(26歳現在でも、日常的にここに戻る)	~2歳10か月	~3歳	●私岩崎の現在の世界認識の位置	対女性共感覚が、好みの女性に収束し、いわゆる恋愛感情に当たる感情が、「メス全体」から「特定の女性」に収斂するようになる。感動を伴うようになり、この共感覚をとどめたいと思うようになる。現代の一般男性の場合、共感覚を失って数年経ったのちに初めて「好み」を自覚するため、成長過程で共感覚と恋愛感情とを同時に自覚した時期が存在しない。恋愛感情が後から生じたものと感じられ、女性一般に対しては共感覚に拠らない性欲のみが感じられているのは、そのためと考えられる。	○マヤ語族 ○オーストラリア原住民諸語(ジルバル語、ワルング語など) ○パプア諸語(アメル語など) ○エスキモー・アレウト語族(イヌイト語、ユピック語など) ●シュメール語	中世日本語
-------	--------------	----------------	--------	-------------	--------------	-------------	-------------	---------	---------	------------	---------	----------	----	-------------------------	---------	-----	-----------------	---	--	-------

I 意格言語	意志体名詞 意志動詞	無意志体名詞 無意志動詞	(意1~9)	私(意) 扉(絶) 作る。	私(意) 扉(絶) 閉める。	私(意) 花(絶) 好む。	私(意) 花(絶) 見る。	私(意) 泣く。	私(絶) 転ぶ。	私(絶) 座っている。	扉(絶) 閉じる。	時間(絶) 残る。	26	~7歳	~3歳2か月	~3歳半	<p>▲およそ半数の解離性障害者女性が維持している段階。(現代日本語を母語としながら、意識はこの段階にある。)</p>	<p>共感覚を覚える女性が次第に限られるようになり、一般男性と同じ近代的な恋愛感情が自覚されるようになる。私岩崎の対女性共感覚、およそ9歳以降、26歳現在まで、この段階を維持している。ただし、以下のような能力の漸減は伴う。</p>	<p>○カルトヴェリ諸語 (グルジア語など)、 ○アブハズ・アディゲ諸語 ○ナフ・ダケスタン諸語 (タバサラン語など) ○ハイダ語 ○ナ・デネ語族 (ナヴァホ語、トリンギット語、●イヤック語：2008/1月消滅)</p>	近世日本語
J 活格言語	活動体名詞 活動詞	不活動体名詞 非活動詞	(活1~9)	私(活) 扉(不活) 作る。	私(活) 扉(不活) 閉める。	私(活) 花(不活) 好む。	私(活) 花(不活) 見る。	私(活) 泣く。	私(活) 転ぶ。	私(不活) 座っている。	家(不活) 建つ。	時間(不活) 残る。	27	~9歳	~3歳10か月	~4歳	<p>▲欧米文明の浸食を受けていない民族が維持している時期(ここまでは文法を変化させても、それ以上進まない。)</p>	<p>共感覚を覚える女性に対しても、場合によってその身体情報の全貌を把握するのに多少の時間を必要とするようになる。</p>	<p>○マスコギ語族 (マスコギ語など) ○スー語族 (チェロキー語、ダコタ語など) ○トゥピ語族 (トゥピ語、グアラニー語など) ○イロクオイ諸語 (モホーク語など)</p>	明治日本語

<p>K 主格言語一</p>	<p>有生名詞 自・他動詞</p>	<p>無生名詞 自動詞</p>	<p>(主一1~9)</p>	<p>私(主) 扉(対) 作る。</p>	<p>私(主) 扉(対) 閉める。</p>	<p>私(主) 花(対) 好む。</p>	<p>私(主) 花(対) 見る。</p>	<p>私(主) 泣く。</p>	<p>私(主) 転ぶ。</p>	<p>私(主) 座っている。</p>	<p>家(対) 建つ。</p>	<p>時間(対) 残る。</p>	<p>26</p>	<p>~11歳</p>	<p>~5歳</p>	<p>~5歳</p>	<p>▼解離感や共感覚を失った現代日本人の遡及の限界域 ▼現在の欧米の解離性障害者の遡及の限界域</p>	<p>周辺の一般男性の世界認識との差、広がる。ただし、一部の女性の排卵期が感知できなくなる。オス(男性)としての寂寥感と罪悪感を体験する。(一般男性は、この時期を4~5歳に体験するため、このような切迫感を記憶しないと考えられる。古代では、このような能力や感情を失ったオスは、生存や子孫繁栄自体が困難となったと思われる。)</p>	<p>●印欧祖語、青銅器時代あたりには主格言語に到達か ○テュルク諸語 ○ツングース諸語 ○モンゴル諸語 ○朝鮮語</p>	<p>戦前日本語</p>
<p>L 主格言語二</p>	<p>有生物・準生物名詞 自・他動詞</p>	<p>非準生物名詞 自動詞</p>	<p>(主二1~9)</p>	<p>私(主) 扉(対) 作る。</p>	<p>私(主) 扉(対) 閉める。</p>	<p>私(主) 花(対) 好む。</p>	<p>私(主) 花(対) 見る。</p>	<p>私(主) 泣く。</p>	<p>私(主) 転ぶ。</p>	<p>私(主) 座っている。</p>	<p>家(主) 建つ。</p>	<p>時間(対) 残る。</p>	<p>30</p>	<p>11歳~成人</p>	<p>~12歳</p>	<p>~12歳</p>	<p>▼ほとんどの現代標準日本語話者の世界認識</p>	<p>一般男性との女性に対する能力差、より明確になる。一方、好みの女性、関心のある女性に対して、排卵期・月経期の感知能力が漸減。寂寥感や絶望感、オスとしての危機感などを覚える頻度が日常的となる。</p>	<p>○ヴォラピュク(人) ○エスペラント(人) ○その他、多くの印欧語母語話者・共感覚者による人工言語(Mantiなど) ○バルト・フィン諸語(フィンランド語、エストニア語など) ○ハンガリー語 ●アッカド語</p>	<p>戦後日本語</p>

<p>M 主格言語三</p>	<p>男性名詞 女性名詞 自・他動詞</p>	<p>中性名詞 自・他動詞</p>	<p>(主三 1~9)</p>	<p>(私・主) (扉・対) 作る。</p>	<p>(私・主) (扉・対) 閉める。</p>	<p>(私・主) (花・対) 好む。</p>	<p>(私・主) (花・対) 見る。</p>	<p>(私・主) 泣く。</p>	<p>(私・主) 転ぶ。</p>	<p>(私・主) 座っている。</p>	<p>(家・主) 建つ。</p>	<p>(時間・主) 残る。</p>	<p>3 4</p>	<p>英語を学習するも、世界認識に変化なし</p>	<p>英語の義務的学習を通じて、この時期を急速に通過</p>	<p>英語の義務的学習を通じて、この時期を急速に通過</p>	<p>▼印欧語母語話者の遡及の限界 ▼印欧語を母語並みに解する日本人の遡及の限界</p>	<p>私岩崎や、江戸時代までの多くの日本人男性、現在の非印欧系の少数民族は、これ以降の対女性共感覚の減滅を体験しない。現代のほとんどの日本人男性は、文法性のない、非主格言語的な日本語を母語としていても、実質的には、その世界認識の仕方は現代欧米人のそれとほぼ等しい。フィンランド人、エストニア人なども、次第に印欧語の世界認識に近づいてきている。</p>	<p>●印欧祖語 (B. C. 4000 : グルガン説) ●古英語 (5~11c中) ○ラテン語 ○ギリシャ語 ○サンスクリット ○マラーティー語</p>	<p>戦後日本語</p>
----------------	--------------------------------	-----------------------	-----------------	------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------	------------------	---------------------	------------------	-------------------	----------------	---------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--	---	--	--------------

N 主格言語四	上記の分類そのままか、あるいは通性名詞と中性名詞、男性名詞と女性名詞に整理・統合自・他動詞	(主四1~9)	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3 3	思考のみで達している領域	同上	同上	同上	B. C. 2000~B. C. 1000 ●ヒッタイト語 ○スラヴ語派 (ロシア語など) ○多くのゲルマン語派 (ドイツ語、アイスランド語、デンマーク語、スウェーデン語、オランダ語) ○ロマンス諸語 (フランス語、スペイン語、イタリア語など) ○バルト語派 (ラトビア語、リトアニア語など) ウルドゥー語、ヒンディー語、 ○インターリングア (人) 4c : ○アラビア語 ●エジプト語	戦後日本語
0 主格言語五	名詞分類 (文法性) 消滅自・他動詞時制・態・法の概念の区別、極度に分析的な言語	(主五1~9)	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上		思考のみで達している領域	13歳 成人	13歳 成人	同上	○英語 ○ベンガル語、ペルシャ語、アルメニア語 (文法性の消滅は、コーカサス諸語やテュルク諸語の影響か。文法だけを見れば、初期の主格言語段階にある。)	戦後日本語

